

【テーマ】

□ 母親に監視されていた年頃の娘たち - その(1)
↳ 母子関係にみる奈良時代の恋愛事情



公民館だより

2018年9月28日(金)

番外編・第7号

奈良市生涯学習財団 二名公民館

館長 上田善紀・発行

■ 子育て講座なんかで公民館を訪れる保護者は決まって母親です。「イクメン」という言葉も生まれている平成の時代ですが、父親が母親に代わって子育てをしているという話とはとんと聞きませぬ。

さてさてー、奈良時代の子育て事情はどうだったのでしょうか。いや実は、やっぱり母親が育児の担当でした。とりわけ、年頃の娘の動向に関しては、なかなかスルドイ監視の目を母親たちは光らせていたのです。

古代、母と子とは緊密な関係にありました。子はやがては家の労働を担う存在となり、特に女子の場合は、主婦となってその家の祭祀を継承する大切な立場にあったのです。そのため、適齢期を迎えた娘の恋愛には殊に厳しく目を光らせていたのでした。万葉集には、そうした母親の姿、とまどう娘、その娘に恋する男のドラマが、歌の証言者として、多く掲載されています。それでは、パターン別に紹介していきましょう。

ところで、今回紹介する万葉歌は「東歌」といわれるものです。文字どおり、東国地方（*東北地方のことではありません。静岡県より以東、主に甲信越〜関東地方を指しています）の無名の人々の歌です。したがって、紹介している歌はすべて、「作者未詳」です。

東歌では、東国方言で歌われ、素朴な調べを作っています。中学校の国語の教科書に載っている、「横綱級」の最も有名な東歌は、

多摩川にさらす手作りさらさらに 何そこの児のここだかなしき

(武蔵国の歌 卷一四―三三七三)

多摩川に水洗いする手織りの布のように、さらにさらにどうしてこの子はこんなにもかわいいのかなあ。

【解説】… 多摩川で布を晒している女性をかわいく見るとうたう男の歌です。

「かなしき」は「悲しい・哀しい」ではありません。古代では「いとおいしい」という意味で使っていました。「悲しい感情」と「いとおいしいという感情」は、きわめて近いものであると考えられています。恋をすると、一人でいると泣きたくなるような悲しい気持ちになる人もいます。思いを寄せる女性が川の中に入って布を晒す姿を見ると、さらにさらにどうしてこ

んなにもいとおしくなってしまうんだろうーと思っっているんですね。なぜ、この作者は、布を晒す女性を「いとおしい」と感じているのでしょうか。ヤボな疑問ですね。この娘に恋しているからです。

国家事業であった万葉集に、天皇や皇族、高級官僚などとともに、無名の農民たちの歌が収められているなんて、世界でも類をみない構成です。しかも、武蔵国や多摩川といえ、今は東京都郊外ですが、当時は、実にへんぴな未開の土地。そんな東国の農民の人びとが歌を詠んでいたなんて、わが国の古代人は驚くべき知的水準にあったといえるでしょう。



それでは本題に戻って、お母さんが娘を監視している歌を楽しく読んでいきましょう。

□ 「女の気持ち」 - キビシイ監視をする母親を疎んじている娘の、切ない心の内

たらちねの 母に申さば 君も我れも 逢ふとはなしに 年そ経ぬべき

作者未詳 卷十一―二五五七

♪ 母さんに打ち明けたなら、あなたも私も逢うことはできず、年月ばかりが経ってしまうでしょう。

♪ 【解】 …逆にいえば「私の母さんは決してわたしたちのことを許しはしないでしょう。だから、黙っていきましょうね。」ということになります。母親が娘の選んだ男を好意的に受け容れたような歌は、どうも万葉集にはあんまりないようです。古代、母親の婿選びには、かなりハードルを高くしていたようですね。



ちやんとためになる!!! 知識②

■ 「たらちねの」とは

枕詞です。主として奈良時代に作られた和歌に用いられた技法です。「あゝの言葉を導き出すための語」といえるものでしょうか。楽曲でいえば、インテロのようなもの。「たらちねの」とは「母」の前に用います。意味はあゝませんが、漢字では「垂乳根」と書きます。いわくありげな漢字ですね。

最後に「近くあるそのほかの枕詞をいくつか紹介しておきます。」

あを(下) (下) → 奈良(下)、あしひきの(下) → 山(下)、あらたまの(下) → 年・月・春(下)、くさまへら(下) → 旅(下)、しきしまの(下) → 大和(下)、ちはやぶる(下) → 神・宇治(下) …

